

講演会などの記録

Great Power: a view from a new world perspective

講演者：釣谷武次 (Professor of Department of Political Science, Washington State University)

日 時：May 18, 1994 (14:50-17:20)

場 所：H-107

第二次大戦後 50 年近く続いてきた二極冷戦構造にかわって世界のシステムとして確立されなければならない構造は、冷戦時代のメンタリティであるゼロ・サム・ゲームではなく、ノンゼロ・サム（つまりポジティブ）ゲームを原則としたものでなければならない。このゲームは個人のレベルにはじまり、組織や国民経済等、世界のシステムを構成する成員の全てにおいて貫徹する必要がある。そのためには超国家的な運営委員会を設立し、そこに専門家や情報分析者を配置してその機能性を維持、促進する。そこで演じられるゲームは Civilized and Civilianized Game である。このゲームを演じるのは、軍人ではなく、財政家、経営者、経済学者、技術官僚達である。当然のことながら、このようなシステムでは独裁的ヘゲモンは機能しない。このシステムで機能するのは、脱工業化社会に入った少数の国々の委員会的意思決定機構である。このようなシステムであっても、局地的な対立や戦争の偶発は避けられないであろう。しかしこのような地域的紛争は国連のような世界のポリスマンによって解決されるべきである。このような場合、脱工業化社会システムのリーダー達にかせられる課題は、守らなければならぬ基準の決定、有効な実施機構、そして責任を分担し合おうとする積極的コミットメントである。

脱工業化世界システムにおいても力の源泉は経済的なものであることは否めない。それに加えて威信 (prestige) がある。威信とは、当該国が、世界的

事柄について率先して行動し、解決のために労力をおしまない国であることを他国が認めることから発生するものである。このような姿勢を特に米国は求められている。

(講演は英語で行われました。)

(文責：国際関係学科教授 鈴木典比古)